

広島県集団災害医療救護訓練の経験

想定される大災害

「南海トラフ」についてはよくご存じの方も多いと思います。四国の南に位置する水深4000m級の深い溝で、フィリピン海プレートとユーラシアプレートが衝突して最大年間6cm沈み込んでいます。歴史的に200年間隔で大地震が発生しており、数年から数十年後には必ずマグニチュード9以上の地震が発生するであろうと言われています。当院は呉地域に3病院ある災害拠点病院のひとつであり、有事には積極的に患者受け入れ、あるいは災害現場へのスタッフの派遣ができるように準備しています。今回は広島県が主催する大規模な訓練を主催する経験ができたので報告します。

10月10日発災！（写真1）

当院のプレイヤーは130人、広島県行政、広島県医師会、広島県警察本部、NEXCO西日本、呉市医師会、呉市消防局、陸上自衛隊、模擬患者役として広島国際大学の学生など、全部門のプレイヤーは総勢300人規模であり、関係者すべてを計算すると400-500人規模の大変大きな訓練となりました。

訓練災害の内容は、当日早朝に芸予地震が発生、震度6弱の大規模地震で、広島市内、呉市内に甚大な被害が及んでおり、特に広地区は交通網が寸断され、中国労災病院は孤立した状態です。

院長を本部長とした災害対策本部を立ち上げ、通常の診療はストップし、ほとんどの医療資源を災害患者に対応させる設定となりました。

訓練内容（写真2）（写真3）（写真4）

最終的な受け入れ模擬患者総数は49名でした。自衛隊ヘリコプターやドクターヘリなどの患者搬入、搬送も行われ本格的な訓練となりました。DMATと呼ばれる災害時の医療救護チームもたくさん参加してくれました。

訓練を経験して（写真5）

今後必ず起こるであろう大災害に向けて当院の役割が各職員にも改めて確認できました。

今回の訓練に参加、サポートしていただいた広島県職員、広島県医師会、呉市医師会をはじめ多くの機関の方々に厚く御礼申し上げます。

写真 1

災害対策本部設置



写真 2

重症患者の患者診察



写真 3

自衛隊機による患者搬送



写真 4

DMAT 本部設営



写真 5

検証会 たくさんの参加ありがとうございました

